

Propionylmaridomycin の外科領域における使用経験

白羽弥右衛門

大阪市立大学医学部第二外科学教室

中尾 純一

長吉総合病院外科

はじめに

Propionylmaridomycin (PMDM) は耐性非誘導型の新マクロライド抗生物質で、グラム陽性菌およびグラム陰性球菌に対し抗菌作用を示し¹⁾、化学構造上 leucomycin(LM), josamycin (JM) と類似の16員環マクロライド抗生物質である。PMDM の代謝は、かなり詳細に検討されており、ヒトでの主な代謝物は、maridomycin (MDM) で、その抗菌力は PMDM と同等もしくはそれ以上であるとされている¹⁾。私どもは武田薬品工業株式会社から提供された PMDM を臨床例に使用する機会をえたので、その成績を報告する。

投与対象

われわれのこれまでの投与対象は外科学的感染症17例で、その内訳は癰7例、粉瘤3例、面疔2例、瘰癧2例、フレグモーネ、乳腺炎、その他各1例であった。

性別は男11例、女6例、年齢は10才から73才までで、平均37.8才であった。

投与方法、投与量、投与期間

1カプセル中に PMDM 200mg を含有する製剤を、成人に対しては1回2カプセル(400mg)ずつを1日3回(1200mg)、10才の小児に対しては1回1カプセル(200mg)を1日3回(600mg)経口投与した。

総投与量は、成人では3.6gから8.4g、平均5.7gで、その投与期間は、3日から7日、平均4.6日間であった。

臨床使用成績

効果の判定の基準としては、外科的処置の有無にかかわらず、自覚的症状の改善のみられたものを有効、自覚的症状が不変あるいは増悪のみられたものを無効とした。臨床使用例は Table 1 に示すとおりで、その臨床効果をみると (Table 1 の合計欄参照)、症例中で最も多い癰については有効5例、無効2例で、有効率71.5

% (5/7) であった。他の症例は、例数が少ないので、全症例をまとめてみると、有効12例、無効5例で、有効率は70.7% (12/17) となった。

発症後から薬剤投与開始までの期間と効果との関係については、Table 2 に示すとおりで、発症後から投与までの期間が短かい程、有効率が高い傾向がみられた。このことは、軟部組織の急性化膿性感染症に対しては、発症初期に PMDM を投与することによって頓挫的な効果の期待されることを示している。

次に切開の有無による疾患別の有効率を Table 3 に示した。切開を要した症例の有効率67%が切開を要しなかった症例の有効率80%より低い値を示したが、これは、切開を要した症例では炎症の過程が進んで、すでに壊死膿瘍化を来たしており、やむをえず炎症の所産を体外に排除する必要があったものと考えられる。以下に代表的な症例を示す。

症例1: T. T. 44才 女、右下腿癰

初診3日前から、右下腿腓腹部に疼痛をおぼえ、しだいに発赤と疼痛が増大した。

初診時疼痛を訴えており、発赤、腫脹を認め、中心部に波動が証明されたので、切開排膿したところ、膿中から *Staph. aureus* (EM+, LM+, OM+) が分離された。そこで、本剤1回400mg、1日3回経口投与を開始した。

投与開始後疼痛、発赤、腫脹がとみに減少、消褪し、投与開始4日目で分泌もほとんどみられなくなり、良好な肉芽創となって、10日目に完治した。

症例2: H. Y. 21才 男、感染性粉瘤

患者の右背部には以前から腫瘍があり、初診3日前から疼痛を自覚したので来院。感染性粉瘤となっていたので、これを剔出したところ、粉瘤の内容物から *Staph. aureus* (EM+, LM+, OM+) が分離された。これに対して本剤1回400mgを1日3回経口投与したところ、3日後には炎症所見が消褪し、手術創は感染することなく、治癒した。

Table 1 Clinical results of propionylmaridomycin

No.	Name	Sex	Age	Diagnosis	Surgery	Dosage schedule				Organism	Effect	Side effect
						Starting day of chemotherapy after onset of the infection	Daily dose (mg)	Duration (days)	Total dose (g)			
1	Y. T.	M	56	Furuncle on the left hip	Incision	3 rd	400×3	5	6.0		Poor	none
2	I. T.	M	39	Furuncle on the right neck	do	2 nd	400×3	5	6.0		Good	none
3	K. K.	M	30	Furuncle on the left forearm	do	2 nd	400×3	4	4.8		Good	none
4	T. K.	M	21	Furuncle on the left shoulder	none	3 rd	400×3	6	7.2		Good	none
5	N. M.	M	26	Furuncle on the right knee	Incision	1 st	400×3	3	3.6		Good	none
6	T. T.	F	44	Furuncle on the right leg	do	3 rd	400×3	5	6.0	<i>Staph. aureus</i>	Good	none
7	T. Y.	F	46	Furuncle on the left thigh	do	4 th	400×3	5	6.0		Poor	none
8	H. Y.	M	21	Contaminate atheromacyst	Removal	3 rd	400×3	3	3.6	<i>Staph. aureus</i>	Good	none
9	K. Y.	F	61	do	Incision	5 th	400×3	5	6.0	<i>Staph. aureus</i>	Good	none
10	T. I.	M	55	do	none	2 nd	400×3	5	6.0		Poor	none
11	K. T.	F	25	Furuncle on the face	Incision	5 th	400×3	3	3.6		Good	none
12	I. T.	M	10	do	none	1 st	200×3	3	1.8	<i>Staph. aureus</i>	Good	none
13	T. K.	F	36	Felon on the right ring finger	Incision	5 th	400×3	7	8.4		Poor	Anorexia
14	T. H.	M	31	Felon on the left middle finger	do	2 nd	400×3	5	6.0		Good	none
15	U. K.	M	42	Cellulitis on the right forearm	none	2 nd	400×3	5	6.0		Good	none
16	M. S.	F	26	Right suppurative mastitis	none	2 nd	400×3	5	6.0		Good	none
17	M. G.	M	73	Contaminated foreign body in the left hand	Incision	4 th	400×3	5	6.0		Poor	Distress in the stomach Anorexia

副作用

17例中2例に食欲不振を主とする胃腸陽害がみられた。いずれも1回400mg, 1日3回投与によって2日後から発現したが, 1例では5日間, 他の1例では7日間本剤を継続投与することができ, その後まもなくこの副作用は消失した。

まとめ

外科的感染症17例にPMDMを使用し, 下記のような結果をえた。

- 1) PMDMを投与した17例中有効12例, 無効5例の成績がえられ, 有効率は70.7%となった。
- 2) 発症後から投与までの期間が短かい程有効率が高い傾向がみられた。
- 3) 副作用としては, 胃腸障害が2例に認められたが, いずれも軽くて, 投与を中止するほどのものではなかった。
- 4) 本剤は, 急性化膿性感染症を主とする外科的感染症

Table 2 Clinical effectiveness and period in days after onset of the infection before chemotherapy

Days after onset	Result		Total
	Good	Poor	
1st day	2		2
2nd day	6	1	7
3rd day	3	1	4
4th day		2	2
5th day	1	1	2
Total	12	5	17

によく奏効し, 副作用も少なく, 今後外科領域における治療に十分な効果を期待しうるものと考ええる。

参考文献

- 1) Propionylmaridomycin シンポジウム
第20回 日本化学療法学会 1972

Table 3 Clinical effectiveness classified by diagnosis with or without surgery

Diagnosis	With surgery			Without surgery			Total		
	Good	Poor	No. of cases	Good	Poor	No. of cases	Good	Poor	No. of cases
Furuncle	4	2	4/6	1		1/1	5	2	5/7(71.5)
Atheromacyst	2		2/2		1	0/1	2	1	2/3
Furuncle on the face	1		1/1	1		1/1	2		2/2
Felon	1	1	1/2				1	1	1/2
Cellulitis				1		1/1	1		1/1
Suppurative mastitis				1		1/1	1		1/1
Others		1	0/1					1	0/1
Total	8	4	8/12(66.7)	4	1	4/5(80)	12	5	12/17 (70.7)

(): efficacy rate (%)

CLINICAL TRIAL OF PROPIONYL MARIDOMYCIN
IN THE FIELD OF SURGERY

YAEMON SHIRAHA

Department of Surgery, Osaka City University Medical School

JUNICHI NAKAO

Department of Surgery, Nagayoshi General Hospital

Seventeen cases of infections in the field of surgery were placed on trial of oral propionylmaridomycin preparations, and the results obtained are summarized as follows :

1. There were noticed good responses on 12 cases, effectiveness accounting for 70.7 per cent.
2. The shorter the interval period following onset of the signs of an infection, the better the responses to the preparations.
3. The antibiotic was given orally to 17 patients on the trial, and untoward side effects experienced as dyspeptic complaints on 2 cases were slight to complete the full dose.
4. It is present impression of the authors that the propionylmaridomycin seems to be a promising oral antibiotic for infections in the field of surgery because of its effectiveness without severe side effects.